



萩往還を歩いている時、道しるべに出会えばホッとする。現在萩往還にはイラスト左側の水色の道しるべ(道標)が、特に間違いやすい場所にはしっかり立てられており、また、あとどれくらいかなあ、と思うところにもこの道標は立てられているので、地図で確認しながら歩けば安心である。江戸時代の道しるべが、この一里塚だった。萩藩では一里山とも言った。復元のものにして、現在残っているのは、以前紹介した悴坂、そして中の埜下、佐々並市頭、ここ上長瀬と、これから出会う一の坂の5か所のみである。萩市内4カ所、山口市内1カ所で、防府市内にはない。ただし、本文にも書いたように18世紀中頃、萩藩の絵図方の役人、有馬喜惣太が描いた絵図「行程記」には一里塚の位置がしっかりと図示されているので、それと現在の地図を比較すれば、その位置を把握することは可能だ。例えば、私が毎朝歩くウォーキングコースの氷上橋のすぐ

側にもあったことが分かる。1里=約4.255km(但し、これは萩藩特有)なのに、絵図で確認していくと一里塚は短いところでは3.5km歩けば出くわすし、長いところでは5.5kmも歩かねば出くわさないから正確なものではないのがお分かりいただけるだろう。まあ、当時はそれで特段の問題はなかったのだと思う。

実は今から7年前、ある予算がついて、語り部の会で分担して萩から防府までの実測を行ったことがある。3人一組で、一人は萩往還沿いを車で走り、二人は山間部を50mの巻き尺を使用して尺取虫方式で計測したのである。中間部とされる一の坂一里塚は萩から6里と示されているのだが、我々の調査では27,509mとなった。1里=4.255kmとして、6里は25,530m。ということで、実測値では約2km長いことになる。単純に2倍すれば、全体で約4km長いという計算。つまり公称「12里、約53km」の萩往還は、もっと長い可能性が高いようだ。「約53km」という数字は、どうやら山口県教育委員会編1981年発行「歴史の道調査報告書 萩往還」の記述が根拠になっているようだ。どのような資料、パンフレットにも「約53km」が使用されているので、我々も敢えて「約53km」と説明している。(2020.8.26 記)

イラストでたどる萩往還 ①⑦ 上長瀬の一里塚



文・イラスト=古谷眞之助



萩往還沿いの一里塚で現存するのは、萩側から悴坂、中の埜下、佐々並市頭、上長瀬、一の坂の5カ所のみである。山口・防府市街のそれは江戸期の絵図「行程記」(山口県文書館所蔵)を広げてみれば凡その位置が分かるので、気になる方は確かめてみて欲しい。現存する5カ所の一里塚の中でも、ここ上長瀬の一里塚は県指定史跡となっており、これも、悴坂の一里塚同様に原形をよく留めていると言われている。かつては、塚の上部に塚木が建てられて、萩からの里程、三田尻までの里程が記されて旅人の歩く目安となっていた。後年、多くの塚が崩壊したのは、塚木の代わりに常緑樹が植えられたためとされている。